

いなみ野ため池ミュージアム

～先人の“遺産”を次代の“資産”に～



いなみ野ため池ミュージアム 運営協議会
兵庫県東播磨県民局

●水をまもる者たちに●

何億年もの時間の中で、無からすべてを生んだのは水だ。

母の胎内を泳ぐように、魚類が水の世界を謳歌したのち、進化をとげた生き物たちが初めて陸地に上がってからも、水がすべてを生かしてきた。

人類を地上の覇者とした以後も、水は、あるときは優しい聖母の顔で恵みをもたらし、あるときはまた厳しい父親の顔で人を絶望に突き落としてきた。

それでも人は、叡智を集めて水を制し、今日にいたる文明を築いたのだ。

我々のふるさとに散らばるため池は、いのちの水を守ろうという、もっとも原初的な、人類の願いの結晶であろう。ほうっておけば川へと流れ海から気化して天上へ還ってしまうめぐみの水を、せめて地上に留めおこうとした、それはせつないまでの祈りの跡なのだ。

ところが2011年3月、我々は、海底ふかく起きた地球の雄叫びによって、制したはずの地上の文明のことごとくを失った。東日本大震災は、テクノロジーという名の傲慢を、一瞬にして無に帰したのだ。

失われたものはもどらない。しかし、大事なことは思い出した。我々はいまだ自然という太古からある一個の地球の上で生かされていること。そして生きるためには、また水とともにあらねばならないことを。

幸い、播磨にはまだ、水瓶が残った。雨の少ないこの風土で、先人たちが懸命に守った、ため池という命の水の容れ物だ。

千年の時を生き抜いたため池を、歴史に葬る権利は我々にはない。生殺与奪を決めるのは、いつの時代も水でしかない。

ならばまもりぬこう。生まれた時からそこにあった、景色の一部の尊い水辺。一人一人が今ここに生かされているのも、この地に水があったからと振り返れば、けがしてはならないものの意味がわかるだろう。

ため池をまもる我々の活動もやっと十六年。

そこに棲む魚や虫や貝や蛙、同じ水から生まれたものたちとともに重ねた時間だ。

同じ時間に、この地では、離農が加速し、宅地化はさらに勢いを増している。価値を忘れられたため池は、窮屈そうな空を映すのみ。年を追うごと、状況がさらに深刻になるのは避けられそうもない。

あらたな一年、十年、そして我々が去った後の千年の世に、同じ水辺の輝きがこの地にあるか。

——それは、今このときを生きる我々の手にかかっている。そんな気がする。



●東播磨のため池●

○兵庫県は日本一の「ため池県」

兵庫県には、全国で約38,000箇所の農業用ため池があります。その数は全国の20%にあたり、日本一の「ため池県」といえます。

○東播磨は「ため池王国」

東播磨地域(明石市・加古川市・高砂市・稲美町・播磨町)は日本有数のため池密度を誇り、国土面積の約10%にあたる県中最長の加古川(稲美町)

図1 都道府県別ため池数



クリーンキャンペーン



かいぼり(池干し)



池にまつわる神事・オクワハン



ため池を使った学習会



「水をもとめて」読書感想文コンクール表彰式



スタンドアップパドルボード(SUP)体験教室



アサザの保全活動



小学校での「ため池学習」



オニバス観察会